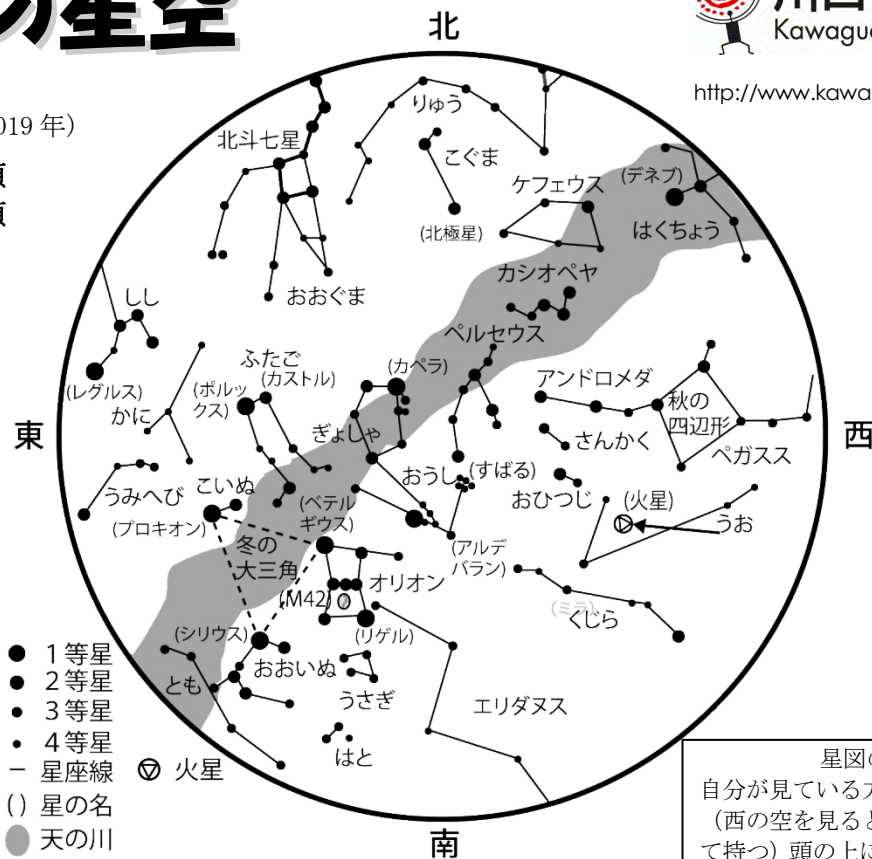


# 今月の星空



1月 (2019年)

上旬 21 時頃  
下旬 20 時頃



星図の見方  
自分が見ている方向を下にして、  
(西の空を見るときは西を下にし  
て持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ● 新月 6 日、○ 上弦 14 日、○ 満月 21 日、● 下弦 28 日

惑星情報 火星 夜のはじめ頃 南西→西 (うお座 1 等級)

## ★6日 部分日食～国内では3年ぶり～

6日、日本全国で太陽の一部が月に隠される部分日食が起こります。国内で日食が見られるのは、2016年3月9日の部分日食以来、約3年ぶりです。正しい方法で安全に、日食を観察してみましょう。

**※注意！太陽を絶対に直接見てはいけません。太陽は強い光と熱を出しています。正しい方法で観察しないと目を痛めたり、失明したりする危険があります。**

<安全な観察方法の例>

- ・ ピンホールを利用する…厚紙などに小さな穴を空けて、日食中の太陽の光を当てると、その影の中に写る太陽が欠けた形になる。木漏れ日を見ても同様の原理で、葉の間を通った光が太陽の形になる。
- ・ 日食グラス等専用の減光フィルターを使う…製品の使用方法等をよく読み、正しく使用すること。

<ワンポイント ～太陽に重なる新月にも注目～>

日食時の月(新月)は光って見えませんが、太陽と重なることで新月の存在を実感できます。また日食の経過は、太陽に対して月が動いていくことで起きますが、これは月が約1か月かけて地球を回っている証拠です。月は1時間に約0.5度(月1個分)、背景の恒星や太陽に対して動きます。

## ★オリオン大星雲(M42)～星のゆりかご～

冬の星座を代表するオリオン座が昇ってきました。中でも注目の天体はオリオン大星雲(M42)です。空の暗いところでは肉眼でもぼんやりとその姿がわかります。望遠鏡では、淡い星雲の広がりや中心部にあるトラペジウムと呼ばれる四重星を見ることができます。ここは星の材料となるガスやちりが集まっている場所で、活発な星形成領域として知られています。この星雲が光り輝いているのは、誕生後間もないトラペジウムから放たれた紫外線が周囲のガスを電離させているためです。このように星雲のガス自身が光を放ったり、恒星の光を反射して輝いたりする星雲を“散光星雲”と呼びます。

### 川口での日食予報

食の始め : 午前8時43分  
食の最大 : 午前10時6分  
食の終わり : 午前11時36分



左図. 食の最大時の欠け具合  
食分: 0.42 (太陽の直径の約4割が月に隠される)